

球磨川水系河川整備計画

〔国管理区間〕（原案）（案）

令和 4 年 3 月

国土交通省 九州地方整備局

球磨川水系河川整備計画（原案）（案） 目次

1. 球磨川の概要	1
1.1. 流域及び河川の概要	1
1.1.1. 流域の概要	1
1.1.2. 地形・地質	3
1.1.3. 気候・気象	5
1.1.4. 自然環境	8
1.1.5. 歴史・文化	12
1.1.6. 土地利用	17
1.1.7. 交通	20
1.1.8. 人口	21
1.1.9. 産業・経済	22
1.1.10. 球磨川流域及び周辺の観光資源	23
1.2. 治水の沿革	25
1.2.1. 洪水の概要	25
1.2.2. 高潮の概要	34
1.2.3. 治水事業の沿革	35
1.3. 利水の沿革	52
1.4. 河川環境の沿革	54
2. 球磨川の現状と課題	55
2.1. 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	55
2.1.1. 洪水対策	55
2.1.2. 高潮、地震・津波対策	59
2.1.3. 内水対策	59
2.1.4. 施設の能力を上回る洪水等への対応	60
2.1.5. 総合的な土砂管理	61
2.1.6. 維持管理	62
2.2. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項	66
2.2.1. 流域の水利用	66
2.2.2. 渇水時等の対応	68
2.3. 河川環境等の整備と保全に関する事項	69
2.3.1. 多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出	69
2.3.2. 水質の保全	78
2.3.3. 良好な景観の保全・創出	81
2.3.4. 人と河川等との豊かな触れ合い活動の場の保全・創出	83
3. 河川整備計画の対象区間及び期間	86
3.1. 計画対象区間	86
3.2. 計画対象期間	86
4. 河川整備計画の目標に関する事項	87
4.1. 河川整備の基本理念	87

4.2. 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標	89
4.2.1. 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標	89
4.2.2. 洪水対策	90
4.2.3. 堤防の安全性確保	91
4.2.4. 高潮対策、地震・津波対策	91
4.2.5. 内水対策	91
4.2.6. 施設の能力を上回る洪水を想定した対策	92
4.2.7. 総合的な土砂管理に向けた取組	92
4.3. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標	93
4.4. 河川環境等の整備と保全に関する目標	94
4.4.1. 河川環境等の整備と保全に関する目標	94
4.4.2. 多様な動植物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出	95
4.4.3. 水質の保全	96
4.4.4. 良好な景観の保全・創出	96
4.4.5. 人と河川等との豊かな触れ合い活動の場の保全・創出	96
4.4.6. 川辺川における流水型ダムの環境保全の取組	96
5. 河川の整備の実施に関する事項	97
5.1. 河川工事の目的、種類及び施行の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要	97
5.1.1. 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	97
5.1.2. 河川環境等の整備と保全に関する事項	110
5.2. 河川の維持の目的、種類及び施行の場所	118
5.2.1. 球磨川水系の特徴を踏まえた維持管理に関する事項	118
5.2.2. 洪水、津波、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項	119
5.2.3. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能に関する事項	128
5.2.4. 河川環境の整備と保全に関する事項	129
6. その他河川整備を総合的に行うために留意すべき事項	134
6.1. 関係機関、地域住民等との連携	134
6.2. 防災力向上及び河川環境の保全等に資するコミュニティ形成への支援活動	135
6.3. 河川情報の発信や共有、環境学習支援等	136
6.4. DX（デジタル・トランスフォーメーション）等の新たな取組の推進	137
6.5. 水源地域の活性化及びダム事業実施に伴う地域振興	138
6.6. 流域全体を視野に入れた取組にあたって	139
6.7. 沿川市町村のまちづくり計画との連携	141
6.8. 伝統技術の継承の取組	142
6.9. 球磨川流域の持続可能な社会の形成に向けて	143

1. 球磨川の概要

1.1. 流域及び河川の概要

《第3回球磨川水系学識者懇談会での意見》
距離の表現は（k）ではなく（km）とする。

1.1.1. 流域の概要

球磨川は、その源を熊本県球磨郡銚子笠（標高 1,489m）に発し、免田川、小縄川、川辺川、山田川、万江川等を合わせつつ人吉（球磨）盆地をほぼ西に向かって貫流し、さらに流向を北に転じながら山間の狭窄部を流下し、八代平野に出て、前川、南川を分派して不知火海（八代海）に注ぐ、幹川流路延長 115 km、流域面積 1,880km² の一級河川です(図 1.1)。

その流域は、主に熊本県南部に位置し、宮崎県及び鹿児島県を合わせた九州南部 3 県にまたがる 4 市 5 町 5 村で熊本県土の約 4 分の 1 を占めています。流域の関係市町村の人口は、昭和 55 年（1980 年）の約 30 万人（高齢化率 11.6%）から、令和 2 年（2020 年）の約 22 万人（高齢化率 36.8%）と推移しています。また、流域の土地利用は、山地等が約 84%、水田や果樹園等の農地が約 6%、宅地等の市街地が約 10%となっており、下流の八代平野では米・イ草の二毛作が盛んに行われ、近年はハウス栽培も盛んでトマトの生産高は全国有数となっています。上流部には肥沃な穀倉地帯が形成されています。

沿川には JR 肥薩線、鹿児島本線（九州新幹線）、九州縦貫自動車道、国道 3 号、219 号等の基幹交通施設が存在し、下流部には、熊本県内で人口が 2 番目に多い八代市があり、上流部には、球磨地方の主要都市である人吉市があるなど、熊本県南部の社会・経済・文化の基盤を成しています。

また、球磨川の河川水を利用して肥沃な穀倉地帯が形成されていること、球磨川くんだり地域観光のシンボルとなっていること、川沿いを走る JR 肥薩線やくま川鉄道は球磨川と一体となった景観を形成していることなど、古くから人々の生活、文化と深い結びつきを持っています。近年も、沿川都市では球磨川の存在を考慮した都市計画マスタープランを策定するなど、球磨川と深い関わりを持ったまちづくりが進められています。

さらに、尺アユと呼ばれる大型のアユをはじめとする多様な生物を育む豊かな自然環境に恵まれていることから、本水系の治水・利水・環境についての意義は極めて大きいものとなっています。

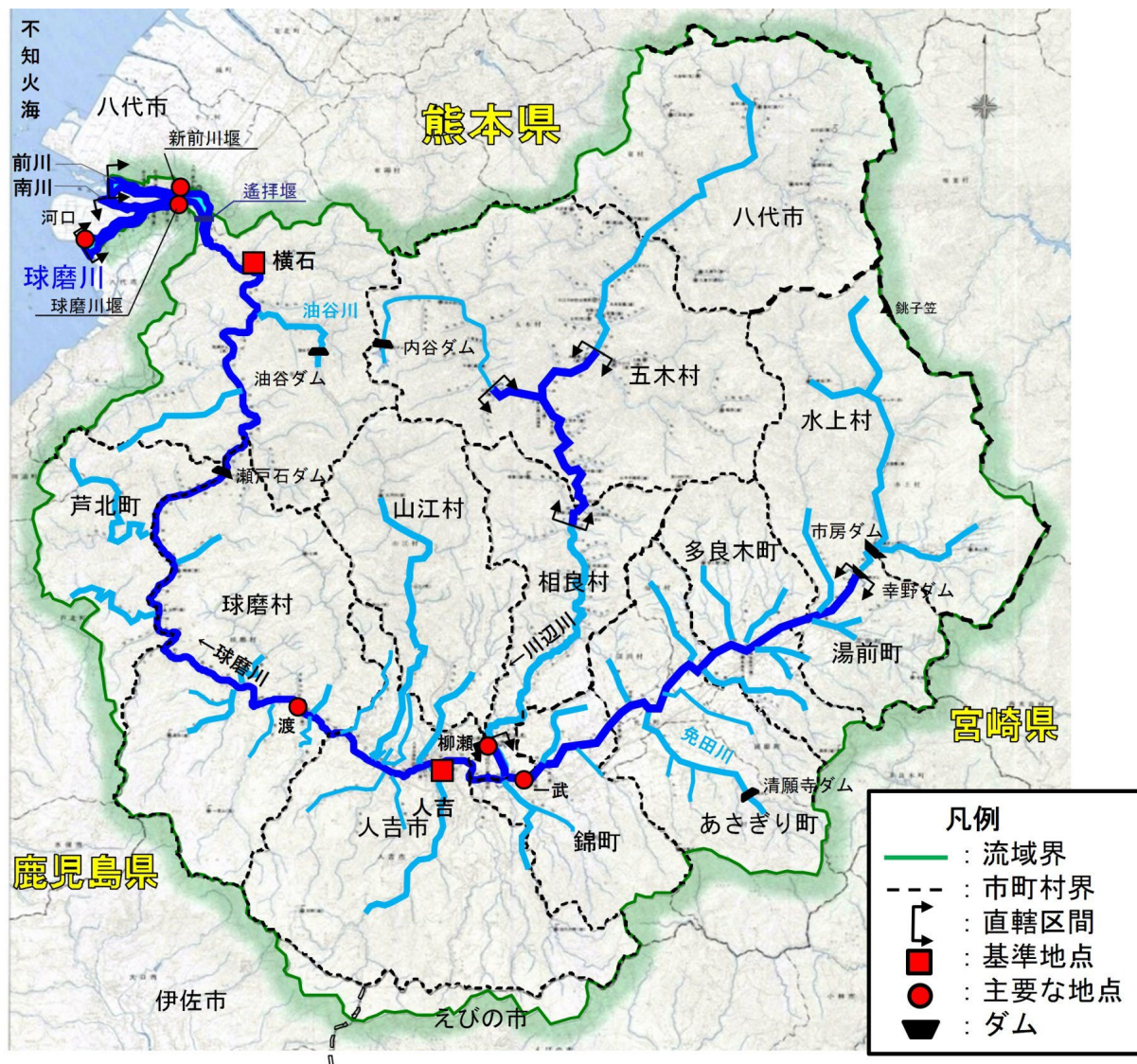


図 1.1 球磨川水系流域図

1.1.2. 地形・地質

(1) 地形

球磨川及び川辺川の上流域は、九州山地に位置し、周囲の急峻^{きゅうしゅん}な山々に降った雨がすり鉢状の盆地に集まる地形となっています。また、干拓で広がった八代平野はゼロメートル地帯となっています(図 1.2)。

河床勾配については、市房^{いちふさ}ダムから渡^{わたり}地点に至るまでの上流部は周囲を急峻な山々に囲まれた人吉(球磨)盆地で 1/200~1/600 程度、渡地点から遙拝^{ようはい}堰に至る中流部の山間狭窄部で 1/300~1/1,000 程度、遙拝堰から河口に至る下流部は干拓で広がった八代平野を貫流し、1/7,000 程度となっており(図 1.3)、球磨川は日本三急流の一つに数えられています。

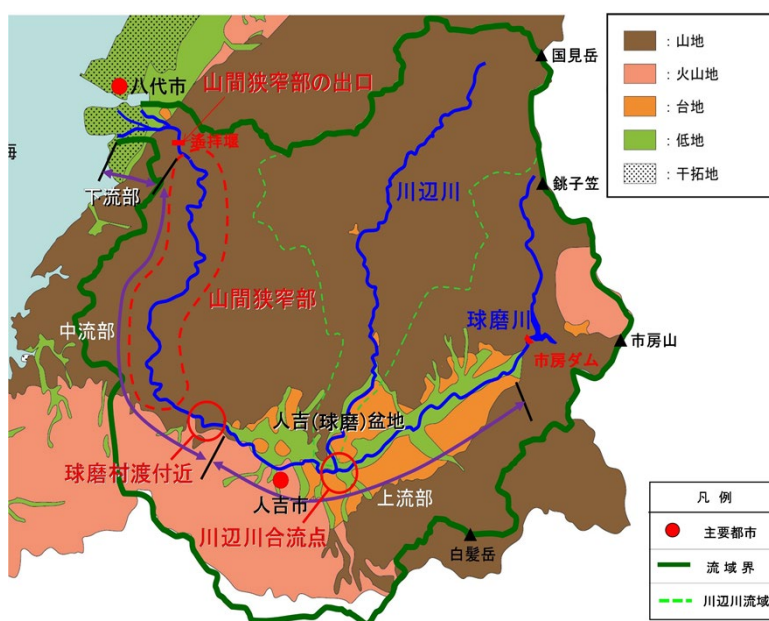


図 1.2 球磨川地形平面図

出典：土地分類図（地形分類図）
熊本県 昭和 48 年（1973 年）経済企画庁総合開発局をもとに作成

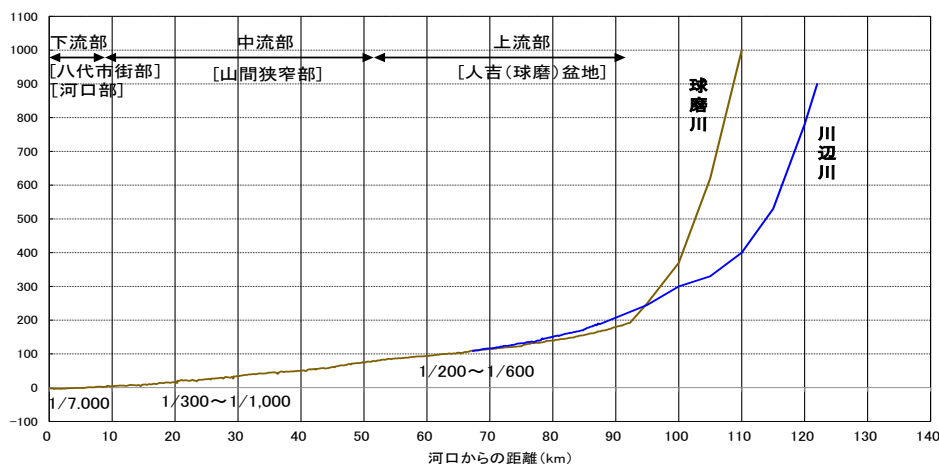


図 1.3 球磨川水系河床勾配縦断図

※上記縦断図は河川定期縦横断測量及び航空レーザーで計測した地盤高を基に図化したもの

(2) 地質

流域の地質は、銚子笠から球磨川中流部の ^{おおさかま}大坂間 を結ぶ ^{ぶつぞう}仏像 構造線が位置しており、これを境に、北側は ^{ちちぶ}秩父 帯南帯と呼ばれ、中・古生代の砂岩、粘板岩等からなっており、その南縁部に石灰岩が分布しています。構造線南側は ^{しまんとろい}四万十 壘 層群と称される中生代の砂岩、粘板岩等が人吉（球磨）盆地を除いて広く分布しており、盆地部には河川の氾濫や火砕流による堆積物が存在しています。

また、人吉地区には、脆弱なシルト岩が主体で強度が低く、乾湿等の変化にも弱い特性がある「人吉層」と呼ばれる軟岩が分布しており、下流八代平野部には沖積層が厚く堆積しています(図 1.4)。

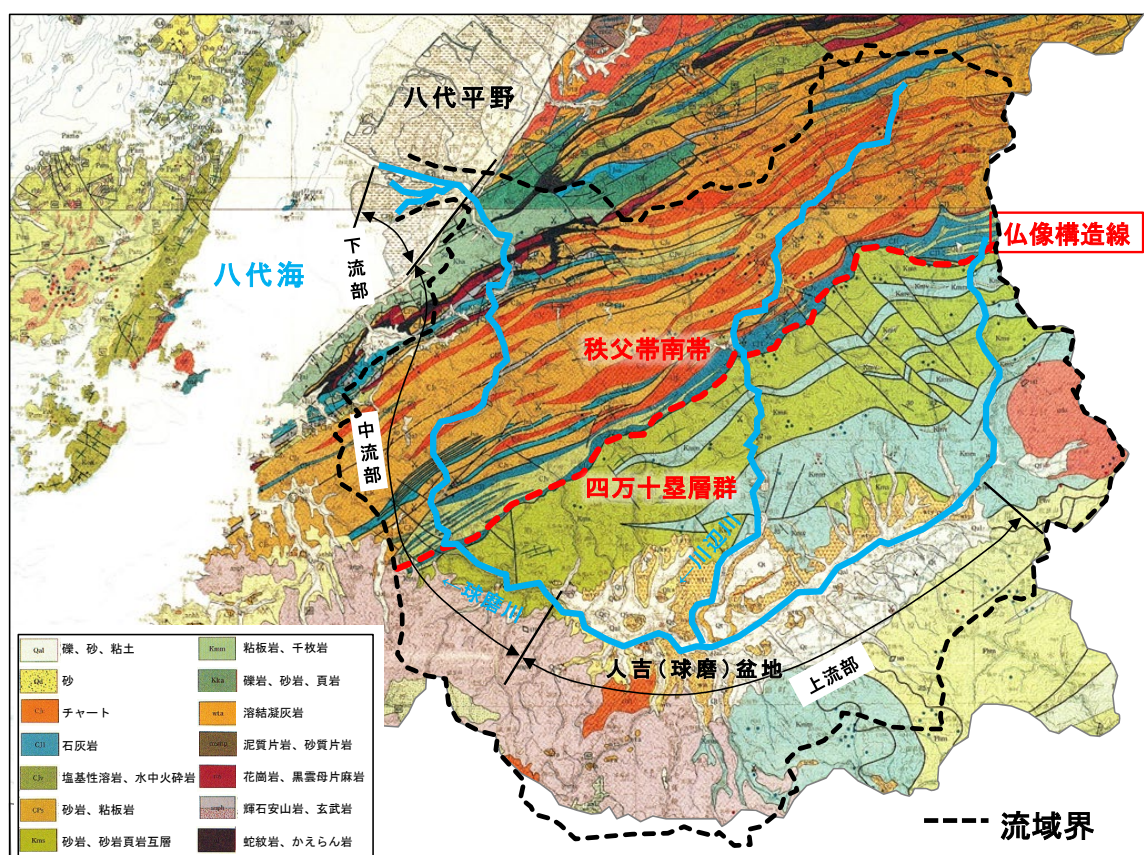


図 1.4 球磨川流域地質平面図

出典：九州地方土木地質図（20 万分の 1）（（財）国土開発技術センター）昭和 60 年（1985 年）

1.1.3. 気候・気象

(1) 球磨川流域の特徴

流域の気候は、太平洋側気候に属し、年平均気温は 16～17℃(図 1.5)、年平均降水量は約 2,850 mm で、日本の年平均降水量約 1,750 mm と比べると約 1.6 倍となっています(図 1.6)。なお、年平均降水量の約 4 割が 6～7 月の梅雨期に集中しています(図 1.7)。

また、流域内の降雨分布をみると、上流の山地部にいくほど降水量が多くなっており、源流付近では年平均降水量 3,000mm を超える降水量となっています(図 1.8)。

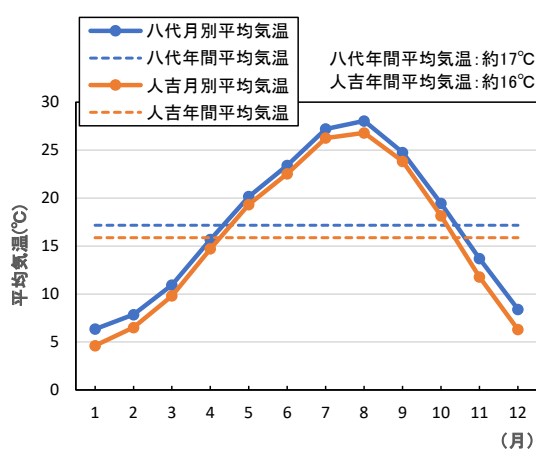


図 1.5 代表地点の月平均気温

注：2001～2020 年平均值

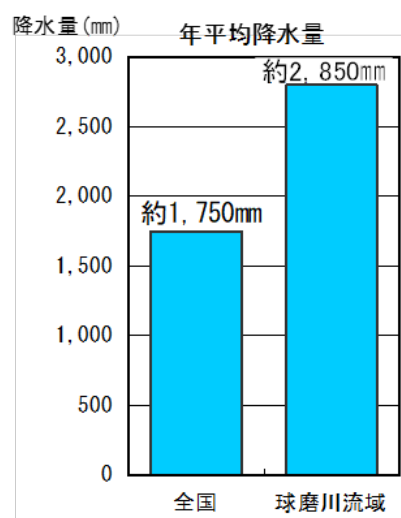


図 1.6 年平均降水量の比較

注：2001～2020 年平均值

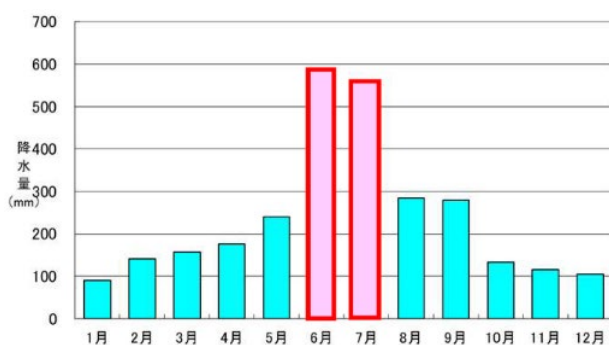


図 1.7 流域内平均月別降水量

注：2001～2020 年平均值

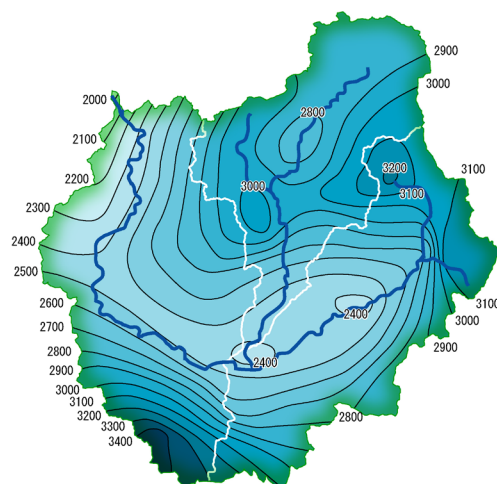


図 1.8 流域内年平均降雨分布図

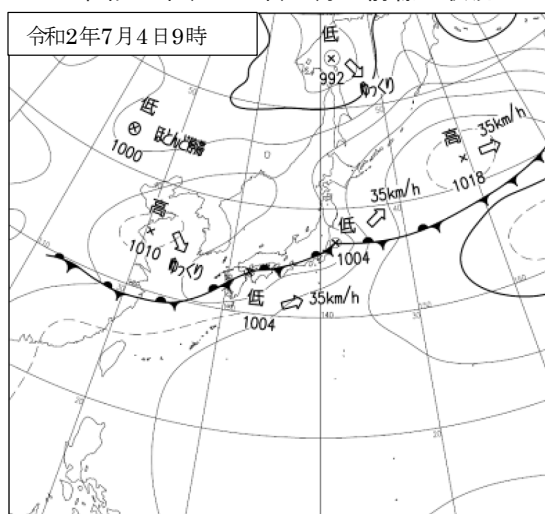
注：2001～2020 年平均值

(2) 前線の降雨状況

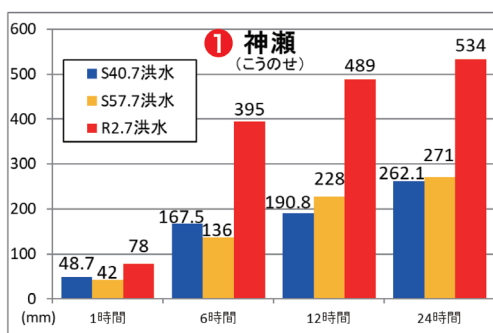
球磨川流域は、梅雨前線が停滞しやすく、流域全域で長期的に降り続く傾向にあります。また、短時間降雨・総雨量も多い傾向にあります。

令和2年7月豪雨では、停滞する梅雨前線上に形成された低気圧に向かい、非常に湿った空気が流れ込み大量の水蒸気が流入したことで、流域の大部分にかかる大型の線状降水帯が発生し、およそ13時間にわたり停滞したことにより記録的な総雨量をもたらしました。この降雨により各雨量観測所において観測開始以来最大の雨量を記録し、神瀬雨量観測所においては、昭和40年（1965年）7月洪水や昭和57年（1982年）7月洪水における雨量の2倍を超える雨量を観測しました（図1.9）。

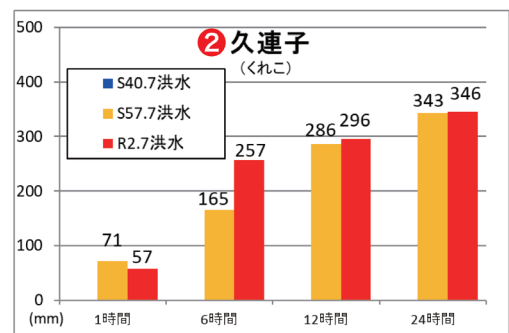
令和2年（2020年）7月の前線の状況



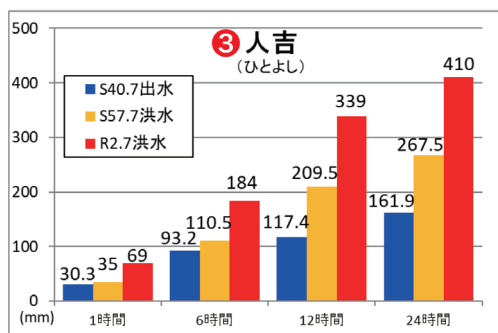
雨量観測所位置図



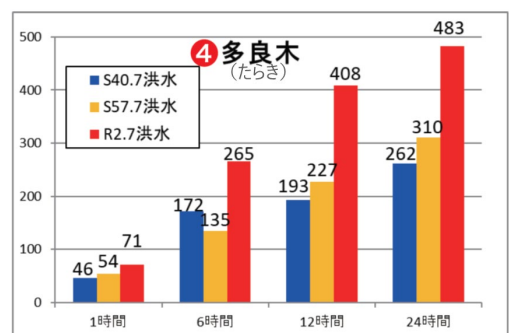
※S29.4の観測開始以来最大の雨量を観測



※S55.4の観測開始以来最大の雨量を観測



※S18.1の観測開始以来最大の雨量を観測



※S29.5の観測開始以来最大の雨量を観測

図 1.9 令和2年7月豪雨（梅雨性）の降雨状況

(3) 台風性の降雨状況

台風の北上に伴う降雨は、九州山地に接する球磨川上流域で多い傾向にあります。

特に九州の西岸を北上した場合、短時間降雨・総雨量とも多く、その一方、九州の東岸を北上した場合は比較的少ない傾向にあります(図 1.10)。

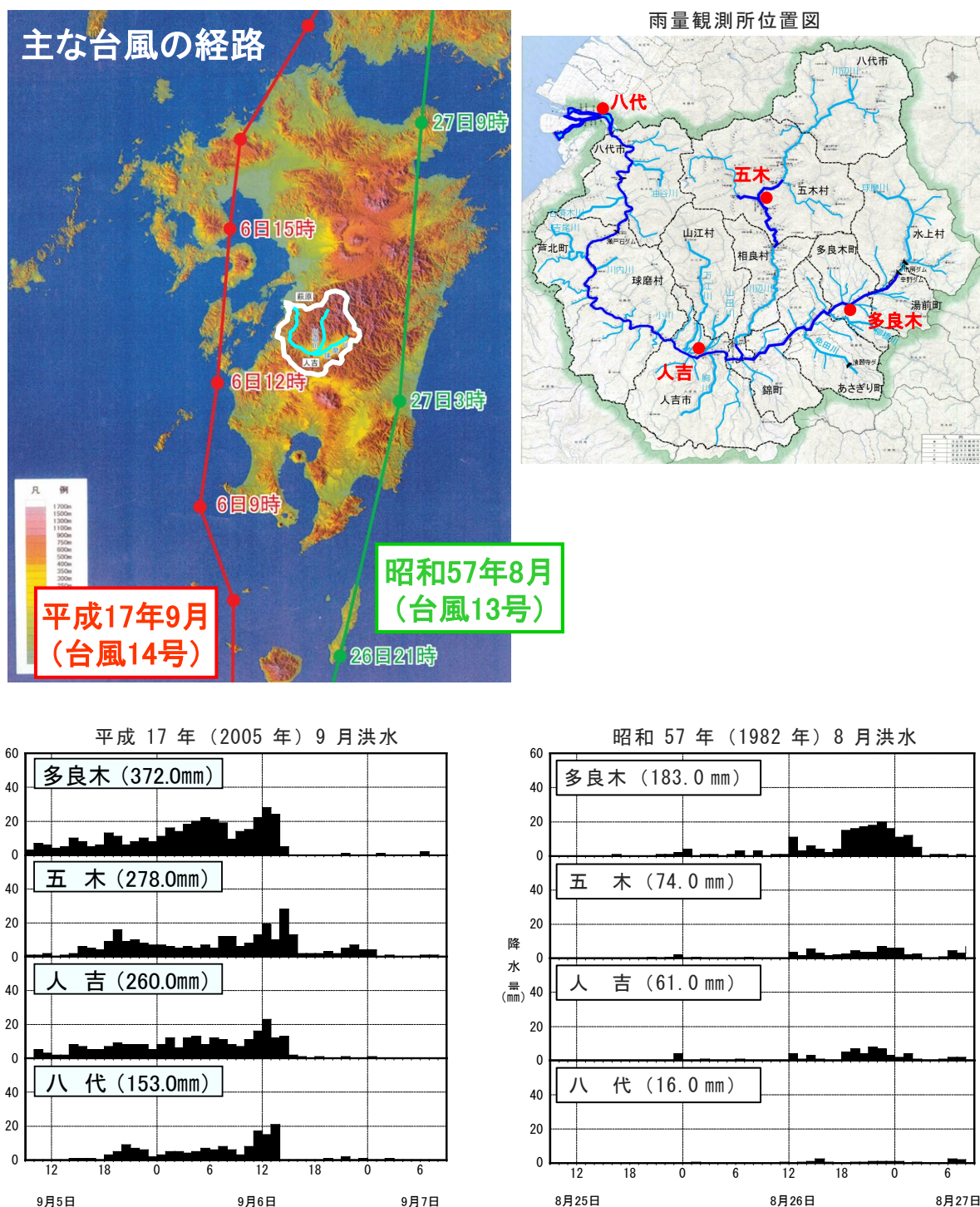


図 1.10 台風性の降雨状況

注：上記のカッコ内は、2日雨量を示す

1.1.4. 自然環境

(1) 河川及びその周辺の自然環境

球磨川流域は、熊本県の南部に位置し、流域の約8割が森林となっています。上流部は人吉（球磨）盆地が形成され、中流部の山間狭窄部では急峻な地形をなしており、平坦地はごくわずかしかな存在しません。下流部は、球磨川河口付近に広がる扇状地で三角州をなしており、河口にはヨシ原や干潟が形成されています。

球磨川流域の植生は、上流部はブナ林やスギ、ヒノキ、サワラ、アカマツの常緑針葉樹林、コナラ・クヌギ等の落葉広葉樹林、水田雑草群落、中流部はシイ・カシ萌芽林やスギ、ヒノキ、サワラの常緑針葉樹林となり、下流部は水田雑草群落が占めています。（図 1.11）。

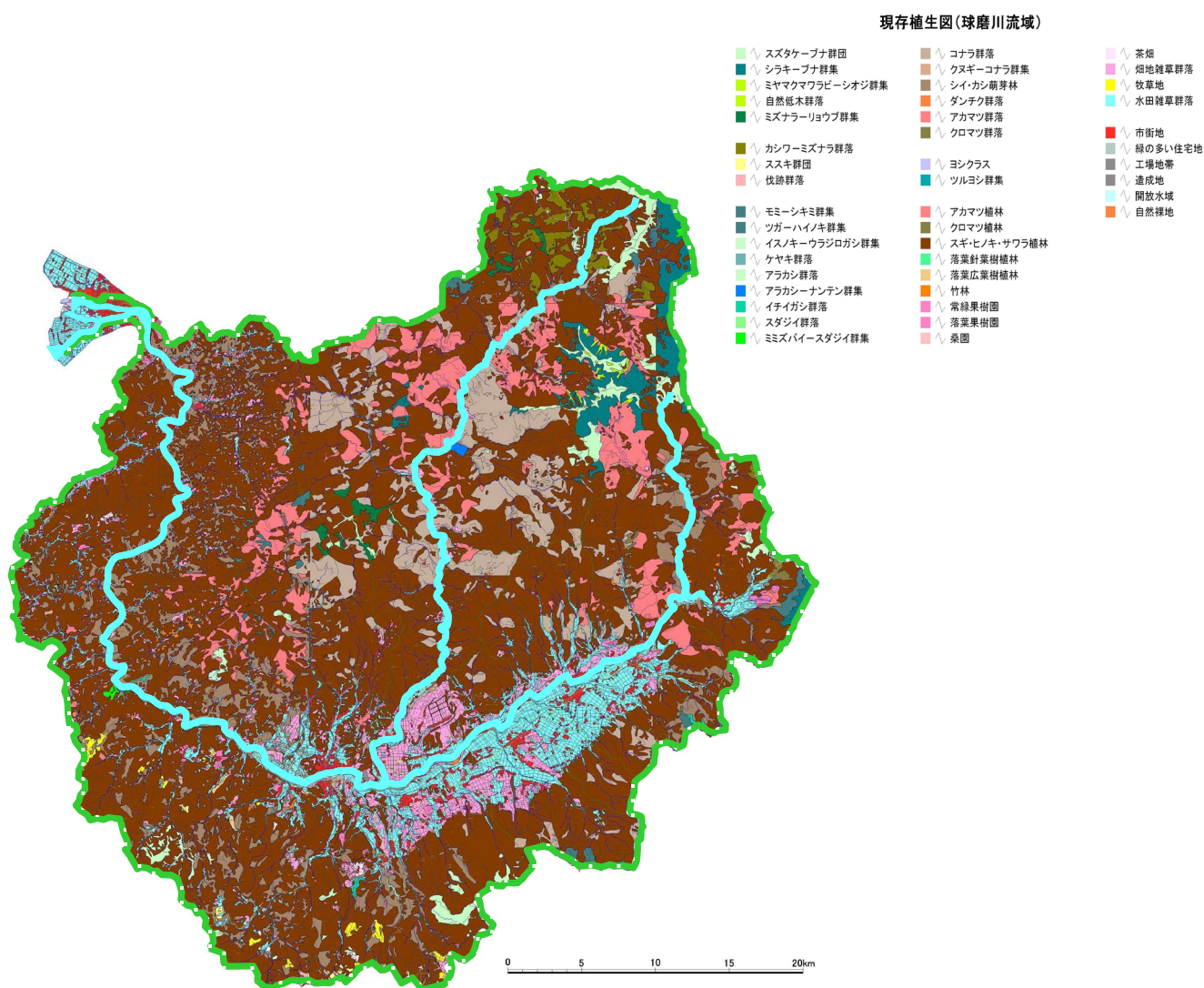


図 1.11 球磨川流域植生図

引用：「第2回～5回自然環境保全基礎調査における現存植生の分布」
自然環境情報 GIS 第2版（環境庁平成11年（1999年））

市房ダムより上流の源流部は、九州中央山地国定公園、奥球磨県立自然公園に指定されており、スギ、ヒノキ林を主体とした熊本県でも有数の森林地帯が形成されています。また、水域は溪流環境を形成し、ヤマメやサワガニ等が生息しています。

上流部は人吉（球磨）盆地の田園地帯を蛇行しながら流下し、人吉市街部を貫流します。水際にはオギ、ツルヨシ群落、高水敷にはヤナギ林が分布し、イカルチドリ、カヤネズミ、コムラサキ等多様な動物が生息しています。また、南九州独特の野イバラであるツクシイバラが生育し、世界最大の自生地となっています。瀬にはアユ、オイカワ、カゲロウ類等が生息しています。また、一部ワンドが形成され、タナゴ類、ミナミメダカ、トンボ類等が生息しています。

中流部は山間狭窄部で急流となっており、川岸は巨岩・奇岩が連なり、瀬と淵が連続して交互に出現しています。水際の礫河原には、ツルヨシ群落が分布しており、河岸にはエノキ、アラカシ等の高木林（広葉樹）が分布しています。瀬にはアユ、オイカワ、カゲロウ類、淵にはカワムツ、カマツカ等が生息し、河原にはイカルチドリ、カワラゴミムシ、ツマグロキチョウ等が生息しています。高木林はヒヨドリやサギ類のねぐら、繁殖の場となっています。また、当区間では瀬戸石ダムが約 10 km に及ぶ湛水域を形成しており、コイ科の魚種等が生息しています。

下流部は八代平野が広がり八代市街部を貫流している区間であり、良好な瀬の再生を目的として整備した「八の字堰」周辺は、アユ等の回遊性魚類の重要な生息・産卵の場となっており、そのほか、オイカワ、オオヨシノボリ、ナマズ等が生息しています。高水敷は大規模な公園として利用されるとともに、ヒバリやセッカ等の草地性の鳥類や、アカネズミ等の小動物の生息の場となっています。また、河岸や中州にはヨシ群落、ヤナギ林が分布しています。

球磨川堰、新前川堰から下流は汽水域となっており、ボラ、ハゼ類等が生息し、水際にはヨシ群落や、アイアシ等塩沼植物群落^{えんしょう}が分布しており、オオヨシキリ等の営巣地となっています。

河口付近は八代海の潮汐の影響を受ける感潮域であり、干潮時には大規模な河口干潟が出現します。水際にはヨシ群落や、シオクグ、アイアシ等塩沼植物群落が分布しています。河口干潟はシギ・チドリ類やカモメ類等の渡り鳥の中継地・越冬地となっています。また、ハクセンシオマネキやアナジャコ類等の甲殻類をはじめとする干潟特有の動物が多く生息し、ヘナタリガイ類等の有明海・八代海の特産種である底生動物も生息しています。

川辺川では水際の河原にツルヨシ群落が分布しています。水域にはアユ、オイカワ、サワガニ等が生息し、鳥類ではヤマセミ等が生息しています。

近年オオクチバスやブルーギル等の外来魚やセイタカアワダチソウ等の外来植物が確認されており、在来種の生息・生育・繁殖への影響が懸念されています(図 1.12)。



図 1.12 球磨川流域区分図

(2) 国定公園及び自然公園

球磨川流域は豊かな自然環境を有しており、周辺の山々が調和した自然景観や河川景観は観光資源としても活かされています。流域の一部は、九州中央山地国定公園、五木五家荘県立自然公園、奥球磨県立自然公園に指定されています(表 1.1、図 1.13)。

表 1.1 球磨川流域における自然公園の指定状況

種別	公園名	流域内関係市町村	指定年月日
国定公園	九州中央山地国定公園	八代市、水上村、五木村	昭和 57 年 (1982 年) 5 月 15 日
県立自然公園	五木五家荘県立自然公園	八代市、相良村、五木村、山江村	昭和 42 年 (1967 年) 9 月 1 日
	奥球磨県立自然公園	多良木町、湯前町、水上村	昭和 30 年 (1955 年) 4 月 1 日

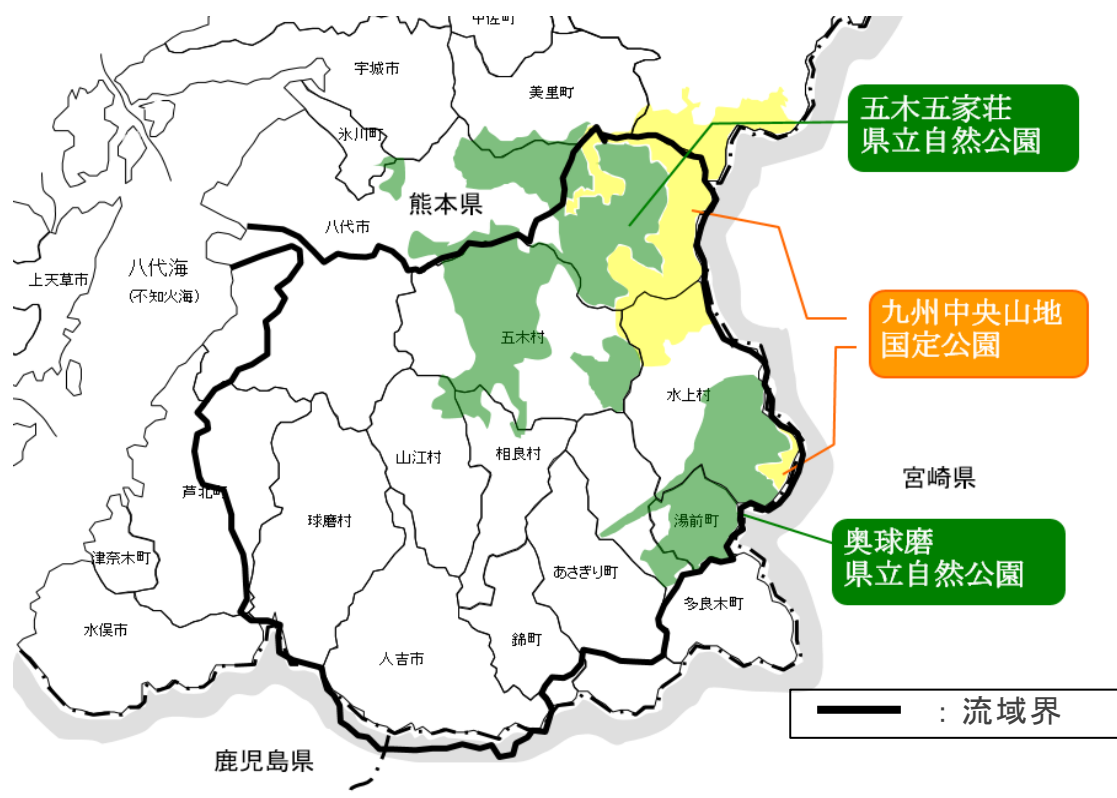


図 1.13 球磨川流域の自然公園位置図

1.1.5. 歴史・文化

球磨川の歴史は、治水と利水をめぐって展開してきました。水田稲作農業を主軸とするところでは、農業用水の開発を中心とする利水が先行し、昔の治水と利水を兼ねた旧遙拝堰や旧前川堰等、治水事業の顕著なものは、およそ利水事業と相伴ったものが多くなっています。球磨川流域の沿岸で開田や利水事業が積極的に実施されるようになったのは、人吉に相良氏が入った西暦 1200 年頃からで、このとき開いた土地や領主の城館を洪水から防護するため、局部的に築堤、護岸、水制等が施工されました。下流の八代地方で開田、干拓、利水事業などが実施されるようになったのは、加藤清正の統治下となった 1600 年代に入ってからであり、巧妙な水はね水制を備えた強固な萩原堤防(図 1.14、図 1.15)、治水と利水を兼ねた旧前川堰、農業用取水堰の旧遙拝堰(慶長 13 年(1608 年)に完成(図 1.16))が建造されました。

萩原堤防の水はね水制は、現在でも一部当時の姿を残した状態で現存しています。また、旧遙拝堰は建造当時、漢字の「八」の字の形状を成していたことから「八の字堰」とも呼ばれていました。その後、昭和 43 年(1968 年)に現在の直線的な堰の形状に改築されています。遙拝堰下流の河床低下に伴い消失した瀬の再生事業を実施するにあたり、改築前の遙拝堰があった場所に、八の字の形状をした落差工を整備し、「良好な瀬の再生」と「歴史的土木構造物の再現」を融合した新たな「八の字堰」が施工されました(図 1.17)。

文化庁では、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(Japan Heritage)」として認定しており、球磨川流域では、「相良 700 年が生んだ保守と進取の文化～日本でもっとも豊かな隠れ里～一人吉球磨～」、「八代を創造した石工たちの軌跡～石工の郷に息づく石造りのレガシー～」の 2 つが認定されています。



図 1.14 萩原堤防

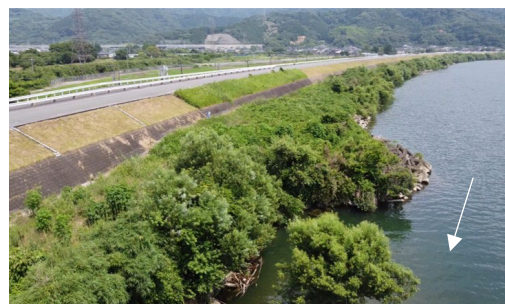


図 1.15 現存する水はね水制



図 1.16 旧遙拝堰(球磨川測量図 1933 年)



図 1.17 八の字堰

また、球磨川流域には歴史的に重要な文化財が多く、流域に関連する関係市町村（宮崎県、鹿児島県を除く。）には、以下に示すとおり 68 件もの国指定文化財が存在します(表 1.2、図 1.18、表 1.3、図 1.19)。

表 1.2 球磨川流域内の国指定文化財一覧表

番号	文化財分類	種類	名称	所在地	指定年月日
1	国宝	建造物	青井阿蘇神社 本殿・廊・幣殿・拝殿・楼門	人吉市	昭和 8 年 1 月 23 日
2	重要文化財	考古資料	肥後国球磨郡免田才園古墳出土品	あさぎり町	昭和 33 年 2 月 8 日
3	重要文化財	彫刻	木造薬師如来立像	八代市	明治 39 年 4 月 14 日
4	重要文化財	彫刻	木造阿弥陀如来坐像	人吉市	明治 39 年 4 月 14 日
5	重要文化財	彫刻	木造阿弥陀如来及び両脇侍立像	多良木町	大正 1 年 9 月 3 日
6	重要文化財	彫刻	木造阿弥陀如来及び両脇侍像(阿弥陀堂安置)	湯前町	大正 4 年 8 月 10 日
7	重要文化財	彫刻	木造毘沙門天立像	山江村	大正 1 年 9 月 3 日
8	重要文化財	書跡	平石如砥墨跡	八代市	昭和 63 年 6 月 6 日
9	重要文化財	工芸品	刀 無銘 伝雲生	八代市	昭和 31 年 6 月 28 日
10	重要文化財	建造物	十三重塔	八代市	昭和 8 年 1 月 23 日
11	重要文化財	建造物	老神神社 本殿・拝殿及び神供所	人吉市	平成 2 年 9 月 11 日
12	重要文化財	建造物	岩屋熊野座神社 中央殿・左殿・右殿・拝殿・覆屋・鳥居	人吉市	平成 14 年 12 月 26 日
13	重要文化財	建造物	桑原家住宅	錦町	昭和 48 年 2 月 23 日
14	重要文化財	建造物	青蓮寺阿弥陀堂	多良木町	大正 2 年 4 月 14 日
15	重要文化財	建造物	太田家住宅	多良木町	昭和 48 年 2 月 23 日
16	重要文化財	建造物	明導寺阿弥陀堂	湯前町	昭和 8 年 1 月 23 日
17	重要文化財	建造物	明導寺九重石塔(城泉寺九重石塔)	湯前町	昭和 8 年 1 月 23 日
18	重要文化財	建造物	明導寺七重石塔(城泉寺七重石塔)	湯前町	昭和 8 年 1 月 23 日
19	重要文化財	建造物	八勝寺阿弥陀堂	湯前町	平成 14 年 12 月 26 日
20	重要文化財	建造物	生善院観音堂 附厨子一基	水上村	平成 2 年 9 月 11 日
21	重要文化財	建造物	十島菅原神社本殿・拝殿	相良村	平成 6 年 7 月 12 日
22	重要文化財	建造物	山田大王神社本殿拝殿及び神供所	山江村	平成 2 年 9 月 11 日
23	重要美術品		紙本墨画中達磨左右鴨図(宮本武蔵筆三幅)	八代市	昭和 14 年 2 月 22 日
24	重要美術品		刀(折り返し銘正恒)	八代市	昭和 17 年 12 月 16 日
25	重要美術品		刀(無銘伝青江)	八代市	昭和 17 年 12 月 16 日
26	登録有形文化財	建造物	シャルトル聖パウロ修道院記念館	八代市	平成 12 年 12 月 4 日
27	登録有形文化財	建造物	シャルトル聖パウロ修道女会 八代修道院煉瓦塀	八代市	平成 30 年 11 月 2 日
28	登録有形文化財	建造物	旧国鉄矢岳駅駅長官舎主屋、井戸	人吉市	平成 15 年 7 月 17 日
29	登録有形文化財	建造物	人吉旅館 玄関棟、東棟、中央棟、西棟	人吉市	平成 25 年 3 月 29 日
30	登録有形文化財	建造物	芳野旅館 本館、別館間棟、居間棟、従業員棟	人吉市	平成 25 年 3 月 29 日
31	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道御溝橋梁	人吉市	平成 26 年 12 月 19 日
32	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道上王川橋梁	人吉市	平成 26 年 12 月 19 日
33	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道岩清水アーチ橋	人吉市	平成 26 年 12 月 19 日
34	登録有形文化財	建造物	旧青井家住宅 主屋、西蔵、東蔵、門	人吉市	平成 29 年 10 月 27 日
35	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道球磨川第四橋梁	錦町・相良村	平成 26 年 12 月 19 日
36	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道第一高柱川橋梁	錦町	平成 26 年 12 月 19 日
37	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道第二高柱川橋梁	錦町	平成 26 年 12 月 19 日
38	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道内門橋梁	錦町	平成 26 年 12 月 19 日
39	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道第二竜井橋梁	錦町	平成 26 年 12 月 19 日
40	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道上駅待合所及びプラットホーム	錦町	平成 26 年 12 月 19 日
41	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道崖下橋梁	あさぎり町	平成 26 年 12 月 19 日
42	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道免田川橋梁	あさぎり町	平成 26 年 12 月 19 日
43	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道井口川橋梁	あさぎり町	平成 26 年 12 月 19 日
44	登録有形文化財	建造物	多良木町交流館石倉(旧多良木町農業会米倉庫) 東棟、西棟、南棟	多良木町	平成 21 年 11 月 2 日
45	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道宮田橋梁	多良木町	平成 26 年 12 月 19 日
46	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道平原アーチ橋	多良木町	平成 26 年 12 月 19 日
47	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道東多良木駅待合所及びプラットホーム	多良木町	平成 26 年 12 月 19 日
48	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道百太郎橋梁	多良木町	平成 26 年 12 月 19 日
49	登録有形文化財	建造物	明導寺本堂	湯前町	平成 10 年 9 月 25 日
50	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道高橋川橋梁	湯前町	平成 26 年 12 月 19 日
51	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道湯前駅本屋	湯前町	平成 26 年 12 月 19 日
52	登録有形文化財	建造物	相良村ふるさと館(旧四浦村役場庁舎)	相良村	平成 19 年 7 月 31 日
53	登録有形文化財	建造物	くま川鉄道川村駅待合所	相良村	平成 26 年 12 月 19 日
54	登録有形文化財	建造物	高寺院毘沙門堂	山江村	平成 10 年 10 月 9 日
55	登録有形文化財	建造物	球磨地域農業協同組合第二六号倉庫(山江倉庫第二号)	山江村	平成 10 年 10 月 26 日
56	登録有形文化財	建造物	赤坂家石倉	山江村	平成 10 年 12 月 11 日
57	登録有形文化財	建造物	旧山江村役場庁舎	山江村	平成 15 年 12 月 1 日
58	重要無形民俗文化財		八代妙見祭の神幸行事	八代市	平成 23 年 3 月 9 日
59	重要無形民俗文化財		球磨神楽	人吉球磨地区	平成 25 年 3 月 12 日
60	無形民俗文化財		古代踊	八代市	昭和 53 年 1 月 31 日
61	無形民俗文化財		植柳の盆踊	八代市	平成 26 年 3 月 10 日
62	無形民俗文化財		八代・芦北の七夕綱	八代市・芦北町	平成 27 年 3 月 2 日
63	史跡		八代城跡群 古龍城跡 麦島城跡 八代城跡	八代市	平成 26 年 3 月 18 日
64	史跡		大村横穴群	人吉市	大正 10 年 3 月 3 日
65	史跡		人吉城跡	人吉市	昭和 36 年 9 月 2 日
66	名勝		水島	八代市	平成 21 年 2 月 12 日
67	名勝		肥後領内名勝地 走り水ノ瀧・神ノ瀬ノ岩屋	八代市・球磨村	平成 27 年 3 月 10 日
68	天然記念物		ゴイシツバメシジミ(※地域定めず)	水上村	昭和 50 年 2 月 13 日

	
十三重塔 ー八代市ー	太田家住宅 ー多良木町ー
各層の塔身の四面には四方仏をきざみ、軒裏には隅木や垂木を造り出し、四隅の隅木の先には目をむき牙を出した鬼面を彫刻しており、鎌倉時代の力強さと写実性が表現されている。 出典：八代市	鉤屋の「二鉤」と呼ばれる屋根をもつ民家の代表的なもので、江戸時代末期に建てられたもの。太田家は、相良家の家臣として人吉に住んだが、後に多良木村に移り、農業と酒造業を営んだと伝えられる。 出典：多良木町
	
免田才園古墳出土品 ーあさぎり町ー	十島菅原神社 ー相良村ー
昭和13年（1938年）に才園古墳群の第2号墳より出土したもの。白銅鏡背面全体に分厚く金が鍍金され、今もなお金色に輝いている。 出典：あさぎり町	弘安年中（1278～1288年）建設されたと伝えられ、菅原道真を祀っている。室町時代以降は相良氏から篤く崇敬された。 出典：熊本県観光振興課
	
八勝寺阿弥陀堂 ー湯前町ー	青井阿蘇神社 ー人吉市ー
鎌倉時代に草創されたと推察される阿弥陀堂。大正時代に茅葺きから瓦葺きに替えられたが平成27年（2015年）に修復された。廻縁を四方にめぐらす寄棟造で、職人が手がけた茅葺き屋根が趣深い町のお宝。 出典：湯前町	人吉・球磨地方最大の神社で総社的存在。大同元年（806年）の創建。国の重要文化財で毎年、10月9日におくんち祭が盛大に行われている。

図 1.18 球磨川流域内文化財

表 1.3 球磨川に関わる歴史的資源

歴史的資源			内容	歴史的 製造年代・ 伝承年代	法指定状況 文化財保護 法・条例
人文的 地物	河川 工作物	1 百太郎溝	延長約 18km、受益面積 1,450ha に及ぶ、灌漑用の水路。	宝永 2 年完成 (1705 年)	指定なし
		2 幸野溝	新田開墾を目的に高橋政重が水路建設を行った。延長約 24km、受益面積 1,720ha に及ぶ、灌漑用の水路。	宝永 2 年完成 (1705 年)	指定なし
		3 百太郎堰	百太郎溝への取水口にあたり、難工事のため「百太郎」が人柱となり、工事が完成した。現在は取水口が下流に移設されている。	江戸時代 (1680 年代)	指定なし
		4 幸野堰	幸野溝取水口にあたる。現在は改修され、取水口は、幸野ダムへと移されている。	江戸時代 (1690 年代)	指定なし
		5 きのえみぞ 木上 溝	水田への灌漑のみでなく、沿川住民への雑用水として利用されている。	宝暦 9 年 (1759 年)	指定なし
		6 遙拝堰・八の字堰	成り立ちは、中世にさかのぼる。農業・工業の両用に取水が行われている。現在の遙拝堰は、昭和 48 年(1973 年)9 月に改築されたものである。近傍にある遙拝神社(758 年創建)には神の使いとして「なまず」が祀られ「なまず信仰」が伝えられている。	中世	指定なし
		7 萩原堤防	城北の松浜軒に至る、延長 6,190m の大土堤である。八代城下を洪水から防御するため築かれた。	江戸時代 (1610 年代)	指定なし
		8 旧前川堰	加藤清正の命で築造された。派川前川の分派口に設けられた分流規制堤で灌漑取水堰の効用を兼ねていた。現在、施設は現存するがその機能は失っている。	江戸時代 (慶長年間)	指定なし
		9 新前川堰	旧前川堰に代わって球磨川の分流前川沿いの八代市街中心部を防御するためにつくられた。	昭和 42 年 (1967 年)	指定なし
		10 球磨川堰	新前川堰と同時に完成した。2 つの堰が相互に水流を調節することで、球磨川下流域の渇水、洪水被害を未然に防ぐ。	昭和 42 年 (1967 年)	指定なし
		11 市房ダム	洪水調節、発電、灌漑を目的とするダム。	昭和 28～34 年 (1953～1959 年)	指定なし
		12 瀬戸石ダム	発電用ダムとして建設。	昭和 31～33 年 (1956～1958 年)	指定なし
		13 球磨川の水運	人吉の商人林正盛が 41 才の厄払いと藩主の参勤交代や庶民の便を図るため、球磨川開削工事を行われた。現在は、球磨川くんだりとして利用されている。	江戸時代 (1662～1664 年)	指定なし
		14 球磨川第 1 橋梁 (八代市)	球磨川に架かる鉄道橋梁(JR 肥薩線)。石積み美しい石造橋脚。橋長 205.3m。 ※R2.7 豪雨で流失	明治 41 年 (1908 年)	指定なし
		15 第二球磨川橋梁 (球磨村)	球磨川に架かる鉄道橋梁(JR 肥薩線)。石積み美しい石造橋脚。橋長 179.7m。 ※R2.7 豪雨で流失	明治 41 年 (1908 年)	指定なし
		16 小崎眼鏡橋 (八代市)	球磨川支川中谷川に架かる単一アーチ橋。長さ 9.0m、径間 7.0m。	寛永 2 年 (1625 年)	八代市 指定文化財
		17 みそぎばし 禊 橋	青井阿蘇神社の参道に架けられた三連式アーチ橋長さ 26.7m、幅 3.8m	大正 10 年 (1921 年)	指定なし
		18 石水寺門前 眼鏡橋(人吉市)	球磨川で最も古い眼鏡橋。長さ 19.5m、幅 2.7m、高さ 7.1m、径間 12.0m。	嘉永 7 年 (1854 年)	人吉市 指定文化財
		19 大正橋 (あさぎり町)	長さ 21.0m、幅 4.2m、高さ 5.3m、径間 6.6m。	大正 2 年 (1910 年)	あさぎり町 指定文化財
		20 森下橋 (山江村)	長さ 7.0m、幅 4.3m。	昭和 16 年 (1941 年)	山江村 指定文化財
		21 下町橋 (湯前町)	長さ 17.0mm、幅 3.4m、径間 11.0m。	明治 39 年 (1906 年)	湯前町 指定文化財
	その他	22 人吉城跡 (人吉市)	相良頼景の長男、長頼により築城された。球磨川本川及び、支川胸川を自然の堀として利用している。現在は公園化され、春は桜、秋は紅葉と観光名所となっている。	鎌倉時代 (元久 2 年(1205 年))	国指定史跡
		23 水島 (八代市)	万葉集に「めでたい水の島」と唄われている。球磨川河口から 50m 離れたところにある美しい小島。	奈良時代	国指定史跡

	
幸野 溝 ー湯前町・多良木町・あさぎり町・錦町ー	ひやくたろうせき 百 太郎堰 ー湯前町ー
	
遙拝堰・八の字堰 ー八代市ー	球磨川の水運（球磨川くだり） ー人吉市・球磨村ー
	
はぎわら 萩原 堤防 ー八代市ー	人吉城跡 ー人吉市ー
	
大正橋 ーあさぎり町ー	水島 ー八代市ー

図 1.19 球磨川に関わる歴史的資源